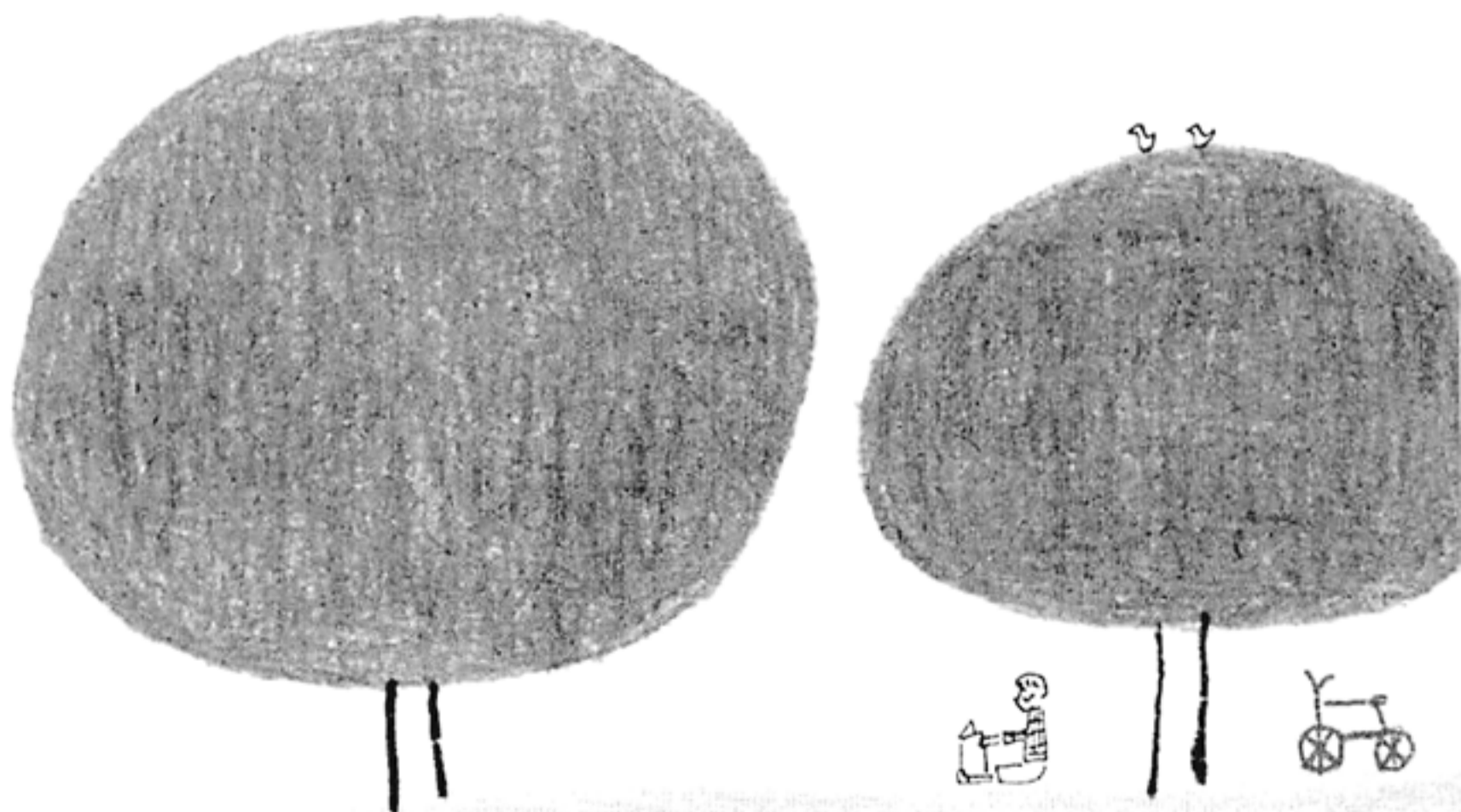


運命だからって、
あきらめない！

上田麻結

ueda mayu



「自分ばかり運が悪いのは気のせい？」というアナタに

——努力しているのに、うまくいかないと感じるときは……

ルール2

「減点法」をやめてみる

「それなりの努力をしているのに、納得できる結果にならない」「私はよっぽど運が悪いのでは……」。そう嘆く人は少なくありません。

一方で、苦もなくすすいと成功しているような人たちもたくさんいます。この違いはいったいどこから生まれるのでしょうか。

当然のことですが、生まれながらにどんな環境を与えられたかは千差万別です。もともと、自分と寸分違たがわぬ条件の下に生まれた人などいないのですから、どんな人生になるかが人それぞれなのは自然なことです。

たとえば、愛情に恵まれて「すくすくと伸びる木」のように育てられた人もいるでしょうし、まるで「忍耐強くがまんし続ける岩」のような環境に育った人もいます。



よう。

また、生まれ持った能力に差があるのも否定できません。

得意なことと不得意なことはみんな異なります。一人一人に備わった資質の違いが、他でもないその人の個性となっていくのです。

自分の良さをどんどんまわりに伝えられる人もいれば、引っ込み思案でいつも陰に隠れている人もいるでしょう。

生まれながらの性質や育った環境条件の違いを思えば、なぜか運がいい人と、あまり運がよくない人がいること自体は仕方のない事実だといえます。

とはいえ、なかなか望む結果を得られない人たちや、運を引き寄せられない人たちに共通している傾向はあるのです。

先ほどの「運命」の項目でも述べたように、生まれついての「運命」は決まっても、その与えられた環境や状況を、どう受けとめ、どう生かしていくかは人それぞれです。「自分は運が悪い」と思ってしまう人は、自らがそういう状況を招いている可能性も多分にあるということなのです。

幸運を実感できない人たちには共通する傾向とは、ひとつは「他人の良さを認めたくない」こと。

もうひとつは、「何かを惜^がしむ気持ちが強^い」ことです。

他人の良さを否定してしま^う嫉妬心

まず、「他人の良さを認めたら^{ない}」ことの弊害についてお話ししましょう。

誰かの成功が耳に入ると、「そんなに大したことじゃないわ」「昔はあんなに立派な人じゃなかった」などと水を差すようなことを言いたがる人がいます。

これは、何が何でも相手の美点を認めたくないという意識の表れ。相手の成功や幸せをうらやむ嫉妬心です。

他人をねたむ心でいっぱいな人は、いつも誰かの欠点を取りざたしているため険悪で怒ったような雰囲気^を漂わせがちです。

また、自分の仲間を増やすために、「あなたも、私と一緒にあの人の成功や幸運を否定しま^しよう！」と他人を自分のもとに引き込みた^がります。

そんな人たちが集ま^って、他人の悪口や批判しか出てこ^ないような空間^ができあ^がれば、きつと大概の人は不快に感じて遠ざ^かっていくでしょう。

人は楽しく心地よい雰囲気^に惹^ひかれて集まるもの^なのです。つねに批判や憎悪^が渦

巻いている場所に居続けるのは、本当は相当しんどいこと……。他人の悪口を言うのが何よりも快感、という人たちでなければ、そんな場所に長く居続けることはできません。そんな場からはだんだん人がいなくなるのが自然な成り行きです。

また、「あれはダメよ」「これもダメね」と批判的な発言が多い人には、どんないい情報を持っていても「こんなの大したことないわ」と否定されそうで、「いい話」は持ちかけにくいものです。

こうして、「他人の良さを認めたらならない」人のもとには、チャンスや幸運な話は来なくなり、だんだんと自分の運も下げていくことになってしまいます。

力の出し惜しみは、幸運を閉め出してしまう

さて、もうひとつの「何かを惜しむ心」についてです。

口を開けば、「このことを教えると損だわ」「私だけが頑張るなんて損」と言う人もいます。きつと、何をしていても「損」する部分にばかり目が行ってしまふのでしよう。こうして「何かを惜しむ心」が強い人も、幸運の訪れを減らしてしまうことになります。

情報や智恵はお金と一緒に。天下の回りものです。得する情報を隠すようにして他人が得するのを阻止せきししたとしても、べつに自分にとっていいことは起こりません。

むしろ、貴重な情報や役立つ智恵はどんどんまわりに提供するほうがいいのです。相手が喜ぶことを教えてあげて、みんなに感謝される存在になれば、やがてはみんなに慕したわれて、大きなチャンスを呼び寄せる結果となるはずです。

また、「私ばかりが頑張るなんて損」とばかりに、サボっている人たちと足並みを揃えたり、わざわざ力量を抑えるというのも本当に不毛なことです。

そのぶんだけ、周囲に認められる機会は減ってしまい、自分の有能さをアピールするチャンスもなくなるのですから。

持てる力をセーブする意識や何かを出し惜しみする心は、あなたのまわりにバリアをつくり出し、それが見えない壁となって、自分のところに来る新しい可能性や幸運をさえぎってしまふのです。

幸福がたくさん寄り添ってくれる生き方

「自分は運が悪い」と思う心の裏には、あなたより「苦もなく成功を手に行っているよ

うに見える人」への嫉妬心があります。まず、自分の中にそうしたねたみや嫉妬の感情があるということ認めるところからしか、何事も始まりません。実は、こうした感情は多かれ少なかれ誰の中にも存在するもの。だからこそ、人はそうしたものに敏感に反応するのです。

まず、自分の中にある嫉妬やねたみの心を認めること、それができた人は強くなれます。

望む人生をかなえるのに必要なのは、「努力」と「運」です。

「努力」は自分一人ですみますが、「運」の多くは、自分以外のどこかからもたらされるものです。

精一杯に努力しても報われないことがあるのなら、あとはまわりからやってくる「運」を増やすように考えるべきでしょう。

そのためには、他人から疎まれるような「嫉妬心」、そこから生まれる「批判精神」や「攻撃性」などは出さないにこしたことはありません。

また、「何かを惜しむ心」に支配されないように心がけ、いつでも最大の力を発揮することを考えたいものです。

知っていることは惜しまず他人にも伝え、できることは率先してやる。他人の良さ

を認めて、ときにはチャンスをつかち合う。そんな生き方を目指せば、きっと似たような仲間に出まれて、物事は何倍もうまくいくようになるでしょう。

順調にチャンスをつかんで幸せになっているのは、他人の良さを認めることができる、何かを惜しむ気持ちが少ない人たちなのです。

そんな生き方は理想的に過ぎるように思われそうですが、実際には「絶対にできない」不可能なことではないはず。まずはひとつずつでも実行してみましよう。

自然に、幸運が寄り添ってくれる人になるのを目指して。

【いつも幸運な人になる、運命改善のポイント】

運をよくするためには、以下の二つを心がけましょう。「他人の良さを認めること」と、「他人へのサービスや情報提供を惜しまないこと」。

気前よくサービスできる人には、大きな幸運が訪れます。

「家族のことが好きになれない」というアナタに

——私は冷たい人間なのだろうかと思うときは……

ルール3

嫌いな人がいるのは当たり前。

問題なのはそれに罪悪感を持つこと

まだ独身で、これから結婚への可能性を探ろうという女性たちの中には、なかなか「親離れ」ができない人がいて、「親から離れたら一人で生活していく自信がない」と本音をもらす人もいます。

「行ってきます」と家を出て仕事に向かい、「ただいま」と戻ればちゃんと夕食が用意されていて、お風呂もきちんとは準備され、あとは寝るだけ……。

子どもの頃からの生活がずっと続き、気がつけばすべての家事も家計のやりくりも親がみんなやってくれる。たしかに、それは愛されていて幸せなことなのかもしれない。

そんな現状のまままで、「私は早く結婚したいのに……」などと言われたりすると、



ほほえましく思う反面、結婚に向かう前にまだいろいろな準備が足りないのでは、と他人事ながらちよつと不安になることも……。

さて、その一方では、「子離れ」できない親に苦しむ人も目立つのです。

親の生活が破綻はたんしていて、「お金をちようだい」と経済的にあてにされ続けている女性や、心理的に親に依存されて「いつまでも、お母さんの面倒をみてちようだいね」「べつに結婚しなくていいから、ずっと親元にいなさい」とベツタリ頼られているケースもあります。

家族の都合で理不尽にコントロールされる人生、そのがんじがらめの状態に苦しんでいる女性は少なくありません。

心理的にもっともつらいのは、家族にまつわる悩み

占い師という仕事柄、いろいろな悩みを耳にしますが、その中でとても切実であり、また同情を禁じ得ないのは、家族に関する悩みです。

家族からの暴力で悩む人、いつもケンカが絶えず苦しむ人、疎外されて身の置き場がない人、家族とわかり合えない人……。

でも、どんなに離れたくても、簡単には離れられないのが家族のつらいところです。あまりにもいろいろなケースがあつて一括くわくりには語れません。が、「家族のことを好きになれない」「こんな家族じゃなければよかったのに」と思うような問題を抱えているのは、本当に不幸なことです。

「本当の親なのに、家族なのに、どうして私の幸せのことを考えてくれないのだろう」。そう思うと、うまくいかないのがつらいだけでなく、ずっとずっと苦しさが増すのです。「身内だからこそちゃんと理解してほしいし、愛してほしいのに、それを望んではいけないのだろうか……」と。

自分を苦しめるのが、「もともと身近な人たち」だと思つくと、それ以外の他人に愛される自信もわかず、私は誰にも愛されないのでは、という考えに陥おちつてしまうこともあるでしょう。

また、大切な家族なのに、大嫌いと思つたり、心の底から憎いと思つたり、「この世からいなくなってしまうえばいいのに」とついつい考えてしまうことで、「とてもいけないことをしている」ような罪悪感を抱くこともあります。

ありとあらゆる心が痛む感情をもたらすものが、「家族の悩み」だといつても、過言ではないでしょう。

「運命」という観点で見ると、家族は他人

でも、占いの師の仕事が続けてきて実感するのは、家族であっても生まれ持った魂はまったく別々だということ。どんなに血が繋がっていても、同じ環境を共に過ごしても、理解し合えない相容れない関係というものは存在します。

家族でありながら、お互いの運命を損なってしまう相性があります。また、お互いを思いやりすぎて、あれこれ心配し合うことで家族中の誰も幸せになれないというケースも現実には存在します。

肉体の遺伝子は受け継いでも、たとえ似た性質を分かち合っても、占星術で人間を考察する以上、それぞれの「運命」や「魂のありよう」はまったく異なるのです。

父でも母でも兄弟姉妹でも、星のもとでは別々なさだめを生きる他人。これは、悲しいけれど本当のことです。

人間関係として、人とうまくやっていけないのはつらいことですが、そこに「家族なのに」という深い悲しみまで背負ってしまったら、どこにも心のやり場がなくなってしまう。

家族のことを心の中で嫌いになってもかまいません。

でも、「家族なのに愛せない」「そんな私はダメな人だ」という罪悪感まで背負う必要はないのです。

家族であつても自分からみて劣っている人や間違っている人はいます。家族だからという理由で「絶対に嫌ってはいけない」「なんて思わなくてもいいのです。また、家族だからこそ理解してくれて当然、理解しなくてはいけないということもないのです。

人生の戦略を立てて、家族環境を乗り切っていく

とはいえ、生まれながらに備わった人間関係や家庭環境も運命のうちです。それをただ嘆いていても、運命はよくなりません。まず、どうやって家族からこうむる被害や対立を減らし、自分の目的をかなえられるか、それだけを考えていくようにしましょう。

これは人生の戦略です。やっかいな存在を上手に懐柔かいじやうしつつ、ともかく前へ前へと進むしかありません。

今言っても通用しないことは後回しにする。家族と深く関われば傷つくしかない

わかっているのなら、表面的にうまくやって、なるべく対立を生まないようにするというのも大切な心構えだといえます。

どうしても行きたい道があるなら、今の時点で可能な範囲での現状突破を考えましょう。たとえ今は妥協する必要があるとしても、何年後かに風向きが変わったら、本当に進みたい進路をあらためて選ぶことも可能になるはずです。

つらく苦しい状況はけっして永遠には続きません。5年10年先には今とまったく異なる運命が開けていくはずで、状況はかならず変化します。

自分で選んだ道を、堂々と進んでいけるときはかならずやってくる、そう信じることが、今現在を乗り切るためには大切なのです。

家族は、あなたを取り巻く「風景」と心得る

家族のことを好きになれなくてもいい。でも一生憎む必要もありません。あなたを取り巻く人間関係は、心の情景をつくる「風景」に過ぎないからです。そのつらさや苦しさに身も心も埋もれさせたり、絶望してしまふことをやめて、その状況をなるべく動揺せずにやり過ごすことを考えてみましょう。

少なくとも、「家族のことを好きになれない」と自分を責めるのはやめましょう。好きになれないままでもいいのです。でも、そのことで自暴自棄になったり孤独になる必要はありません。

自分の行く手をさえぎる障害物はたくさんありますが、それに泣きながら体当たりしても、無力なままではケガをするだけ。まだ体当たりできるだけの体勢が整っていないのなら、ぐるりと避けて遠回りをし、ぶつからずに前に進んでいくことを考えてみてください。

あなたの運命を守れるのは、あなた自身しかいないのです。人生にはうまくいくときとうまくいかないときがあります。

時がたつにつれて、今よりも自分にとって有利な状況が見えてきたら、そのときには勇気をもってやるべきことをやるという考え方をしてみてください。

あなたが願っている相手からの理解や愛情を獲得するのは、その後のことです。

家族の悩みを克服した者に与えられる本物の優しさ

人生はつらいまま、苦しいままではありません。

いつか役立つことをコツコツ積み上げておけば、かならず八方塞はっぽうふさがりの状況は打破できるようになります。それを信じて、今は淡々と準備をしていくときなのだと思えましょう。

人生にはいろいろな種類のハンデがあります。

「家族の悩み」というつらさを与えられてしまったけれど、そのもっとも心傷つくハンデを克服することができたなら、きっとその後は人生に何も恐れるものがないくらい強くなれます。

好きになれない家族は、あなたにとっても身近な反面教師です。もしも、その人たちのことが嫌いなら、「私はこういう人間にはならないようにしよう」と心の中で決意しましょう。

あなたはいずれ、自分の親やきょうだいだが、どうしてそんなにいやな存在になったのかも理解します。

それだけでもあなたは成長します。

それとともに、家族関係で苦勞した人は、そのありがたみが身にしみてわかっているぶんだけ、人への優しさや愛情深さを備えた人間になるはずです。

「自分が受けた心の痛みを他人に与えない」という美德は、家族の悩みを克服した者

こそが得られる最大の宝物。それは、他のどんな人よりも強く大きく育つための力となります。

【いつも幸運な人になる、運命改善のポイント】

つらい心のハンデは、あなたを強く優しい人間へと成長させます。

家族との関係は、時が静かに解決してくれます。

そのときを信じて、けっして絶望せずに前へ前へ進みましょう。

運命だからって、あきらめない！
上田麻結 著

発行・集英社インターナショナル 発売・集英社
定価 680 円（税込）
ISBN 978-4-7976-7212-1

ウェブでのご予約・ご注文は [こちらにどうぞ！](#)